



飯地小学校 HP

夢をもち、懸命に生きる子 ～進んで学ぶ子・思いやりのある子・元気な子～

## 実りの秋 ～本(者・物)に触れる～

校長 下畑 茂

笠置峡の水面から立ち込める朝霧。その先には、朝日を浴び鮮やかに色づいた紅葉の広がる世界。

校庭の「はなの木」は緑から、黄色、オレンジ、赤色と姿を変え、ひととき明るく、大きく感じられました。

実りの秋を迎え、子ども達は校内外共に充実した日々を過ごしました。学校菜園では「いいじっ子サポーター」の方と一緒にお芋の収穫を。落ち葉を集め秋の味覚をみんなで堪能しました。体育館で PTA 家庭教育学級主催の芸術鑑賞会を行いました。地域の方も一緒に参観。目の前で演じられる迫力に魅了されました。最後に、いつものように全員が感想を。一緒に参加した、いいじこども園の子も自然と手を挙げる姿が。劇団の方が「子どもの数は少ないですが、反応が伝わってきて、やりやすかった。全員が感想を語れることに驚きました」と話されました。

11月は各学年が校外研修に出かけて行きました。低学年は明智鉄道を使い岩村へ。岩邑小学校では、音楽室のステージに立つと、みんなの口からは自然と飯地小学校の校歌が。「気持ちよかった」とのこと。中学年は瑞浪サイエンスワールドと化石博物館へ。「飯地小の代表として」を意識して移動のバス、施設で元気なあいさつ、お礼を伝えることができました。6年生は笠周地区の三小学校合同で修学旅行へ。

出発式では、自分達のめあてを堂々と語る姿が。日頃より大事にしていることが、各学年で形となり表れていると感じます。「いつでも・どこでも・だれにでも・ひとりでも」を目指して、「本物の力」にする。校外学習は、見聞を深める。仲間と協力。に加え、こうした力が試され、鍛える場になります。

また芸術・文化の秋は、読書も充実していました。図書館司書の方が記録してくれています。先月は全校平均17冊の本の貸し出しがありました。今年度より「いいじの日(2の付く日は画面視聴を読書に)」を始めました。取組はいかがでしょうか。親子読書をした際に、「問いかける」ことで子どもが読書好き、読書体験が深まる効果が示されています。

さりげなく、「この後どうなりそう?」「何でこんなことやったんだろうね?」「自分に似ていることあった?」「あなたならどうする?」「この人にお話してきたら何を聞きたい?」「友達だったらなんて言ってあげる?」等【堀田秀吾著:「子どもの読書」より】

読書を通して、知識を得るだけでなく、誰かの気持ちに共感し、自分の言葉をもって、考えられる。これから生きていく子ども達に必要とされる力です。その小さな「きっかけ」を親子で紡いでいく。そんな機会となることを願っています。

### 飯地小学校運営協議会コーナー 飯地高原文化祭り 飯地太鼓とNHK「発酵おばあちゃん」

～地域ぐるみで育てたい姿『豊かな体験を通して、ふるさと飯地への愛着と誇りをもつ』～

爽やかな秋空の下、昨年に引き続き、1・2年生は、飯地高原文化祭り太鼓を披露しました。休日になりますが、「出たい!」という子ども達の願いがありました。飯地小学校では、生活科、総合的な学習の時間に「ふるさと学習」として地域の良さ(自然、伝統、文化等)を地域のサポーターの方と共に、系統的に学んでいます。3・4年生は学校菜園で育てたこんにゃく芋を使って、飯地こんにゃくづくりに取組めます。そうした中、11月末に NHK で飯地町の特産品が放映されました。町・人・物の魅力溢れるものでした。低学年の学習の様子にも触れられました。県外の知人からも連絡が入り、「飯地町っていい所だね」と言われ、とても誇らしい気持ちになりました。番組の中で、小雪さんが「するめの麴漬けて、子ども達も作れるようになりますかね?」と問いかけました。日本の各地で、文化の継承が難しくなっている現在。こうして子ども達がふるさとの良さを知り、関わり、伝えていく。その志をいかに育てていくか。私達大人の責務です。

